中学校社会科「山梨県史」活用資料及び展開例

「源頼朝と山梨にいた源氏」

１．活用資料、展開例に対応する学習指導要領中学校社会科の目標と内容

目標　（２）国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

（４）身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

内容　（１）歴史の流れと地域の歴史

イ　身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地位への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身につけさせる。

（３）中世の日本

ア　武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界との関わりに気付かせる。

２．県史アンケート結果と対応する活用資料の項目

・水害・治水	・地域の発展に尽くした先人の業績
・地域に残る文化財	・甲府空襲
・戦時下のくらし	・戦国武田三代
・甲斐源氏	・身延山と日蓮
・幕末・維新の山梨	・天保郡内騒動
・富士川舟運	・甲府城・城下町

３．内容（３）中世の日本　に該当する『山梨県史』

通史編１，２

資料編４中世１（県内文書）

資料編５中世２（県外文書）

資料編６中世３上（県内記録）中世３下（県外記録）

資料編７中世４（考古資料）

文化財編　　民俗編

４．展開例「峡北地方の甲斐源氏」に関連する『山梨県史』活用資料

通史編１　原始・古代　　「第５節　甲斐源氏の胎動」

資料編６　中世３上（県内記録）　「系図」

資料編６　中世３下（県外記録）　「吾妻鏡」「平治物語」「平家物語」その他

資料編７　中世４（考古資料）「若神子城」「谷戸城」「武田信義館」「願成寺・五輪塔」

文化財編　「武田八幡神社」

・　その他参考文献

萩原三雄監修『韮崎・巨摩の歴史』、郷土出版社、２０００

柴辻俊六『甲斐　武田一族』、新人物往来社、２００５

５．展開例

＊対象となる時間　　学習指導要領　内容（３）中世の日本　ア武士の台頭
戦いの専門家「武士」の登場（帝国書院）後の特設授業

＊所要時間　　１時間（５０分）

＊目標　　・身近な甲斐源氏の史跡について興味を持ち、積極的に調べようとする。
・資料の読み取りができ、甲斐源氏と頼朝、甲斐源氏と武田氏の関係を整理することができる。
・歴史への視点がひとつではないことを感じることができる。

	学　習　の　流　れ	提示　資料	生　徒　の　活　動
導入５分	①前時の復習 （平安時代末期の武士の起こりについて質問をする） ②源氏と平氏について簡単に解説する。 ＊　最終的に平氏を滅亡させ、幕府を成立させたのは誰か。 ＊教科書に出ているように頼朝は、関東の武士の協力で挙兵しています。誰のことだろうか。	教科書	・教師の質問に答えながら、復習をする （武士団の中でも源氏と平氏の率いる勢力が有力だったことを確認する） ・源頼朝
	③　甲斐源氏の基本について学習する。		

展開Ⅰ 20分	＊山梨にも源氏がいたことを知っていますか。 ＊頼朝とは関係があるのだろうか。確かめてみよう。 ＊系図を世代ごとに線を引いて区切ってみよう。 ＊資料の年表をたどって気がつくことがありますか。 ＊　甲斐源氏はどのあたりに根拠地を持っていたのだろう。 ＊実は、甲斐源氏は峡北の地に多くの足跡を残しています。資料を見ながら、史跡の写真を黒板の地図に貼り、関わりの深い甲斐源氏の名を書き込もう。	資料編６中世３上　１５「円光院武田系図」１６「成就院武田系図」 通史編１原始・古代　図８－５甲斐源氏系図 資料編７中世４考古資料 「若神子城」「谷戸城」「武田信義館」「願成寺・五輪塔」 文化財編 「武田八幡神社」 その他資料より 「正覚寺」「鎧堂観音」「清光寺」	・聞いたことがある。 ・「甲斐源氏」？ ・資料の年表を見て確認する。 ・系図を世代ごとにまとめて関係を確認する。 ・頼朝と関係があるだけでなく、武田信玄ともつながっている。 ・長坂町には、「甲斐源氏発生の地」とかいた石碑がある。 ・須玉町では、甲斐源氏祭りという祭りがある。 ・資料を見る。 ・黒板に写真を貼る。名前を書き込む
展開Ⅱ 20分	④　甲斐源氏と頼朝について学習する。 ＊甲斐源氏は、頼朝が平氏に対して兵を挙げたとき、どのような立場をとったと思いますか。 ＊甲斐源氏の挙兵の様子は、いろいろな史料に見ることができます。（教師からの解説） ＊史料によると、甲斐源氏は「富士川の合戦」をはじめ、各地の戦いに参加し、頼朝に功績を認められているようです。	資料編６　中世３下　「吾妻鏡」「平治物語」「平家物語」より（資料の信憑性についてのはなしもする）	・もちろん親戚の頼朝を味方した？ ・解説を聞きながら、史料を見る。

	○しかし、鎌倉幕府成立に際して、甲斐源氏の活躍は全国的にあまり知られていないようです。なぜだと思いますか。 ○実は、甲斐源氏の有力な武士たちの多くは、頼朝によって陥れられたり、謀殺されたりしています。なぜだと思いますか。		・自分なりの考えを持って、予想を発表する。 ・頼朝は、自分の権力を守るために、力を持っている甲斐源氏を消したのかもしれない。
まとめ 5分	⑤歴史の視点について気づく。 ・源氏の戦いについて、頼朝の立場と甲斐源氏の立場のそれぞれについて、自分の感想を書いてみよう。		・ノートに感想を書く

文化財編　武田八幡神社

25

武田八幡神社本殿

一棟　附棟札五枚　旧巻斗一箇

韮崎市神山町　武田八幡神社

昭和四年四月六日重要文化財指定

三間社流造　檜皮葺

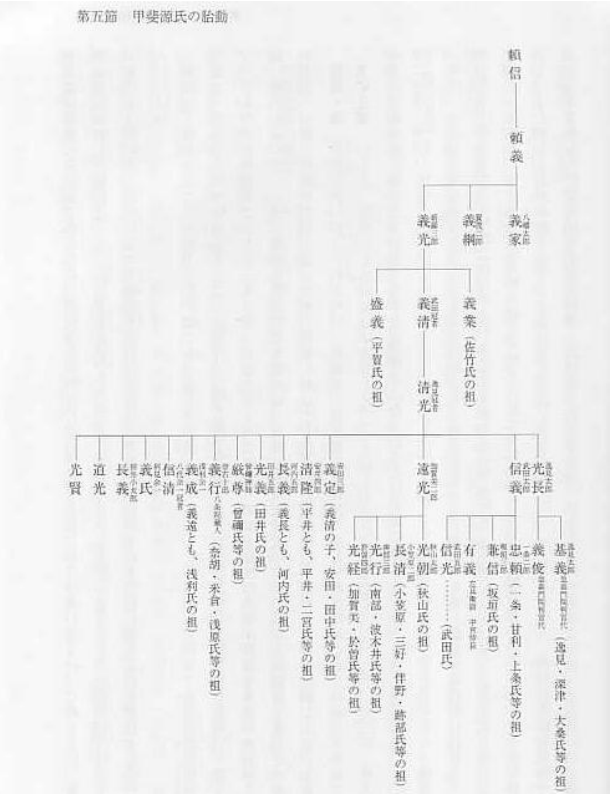
天文十年（一五四一）

韮崎から西側の釜無川を渡り、少し河岸の通りを北に上ると、真直ぐ西に入る道路があり、その突き当りの山裾が武田八幡神社である。

『甲斐国志』に「大門通り中央ノ広サ九尺両側各七尺、長サ百九拾歩」とある。今でも山裾に近い方は両側に宿坊風の連続屋敷割の形跡が認められ、神社境内から東北に雄大な裾野を引く茅ケ岳が望見できる。

参道途中には二の鳥居として大形の木造両部鳥居

原始・古代　通史編　甲斐源氏系図



中世４　考古資料　谷戸城

図112　谷戸城測量図

102　谷戸城

北巨摩郡大泉村谷戸

別　称　城山・茶臼山・谷戸ノ城跡

標　高　八六五メートル

比　高　三〇～五〇メートル

立　地　八ケ岳の山体崩落にともない形成された流れ山地形上に立地し、北側は尾根状を呈し三方は急崖を形成している。東側には東衣川が流れ、西側には六の郭の位置する平坦部が接続し、その西側を西衣川が流下している。

歴　史　当城は城山と称され、古くから城跡と認識されてきた。文政八年帳にも古城山の記載があり、甲斐と伝えられている。「甲斐国志」も項でも清光が正治元年（一一九九没したとしている。同書はまた、天正壬午の戦いに際し北条氏が修「甲陽日記」にみえる「矢戸御陣地が武田氏による信州攻略ルートえるが、当城と直接結びつける史

調査と研究　当城の調査は一九七研究会の測量調査を九八一年には桜植樹にともない初た。以後、開発に先立つ調査が続九九二年以降史跡の保存整備にとている。一九九三年には国の史跡

主郭である一の郭から五の郭は輪郭状に配置された郭群である。は一体性が強く、四、五の郭は後